

---

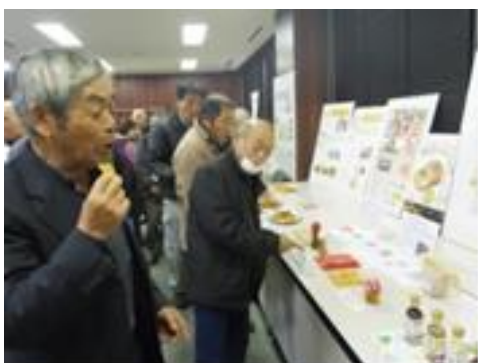
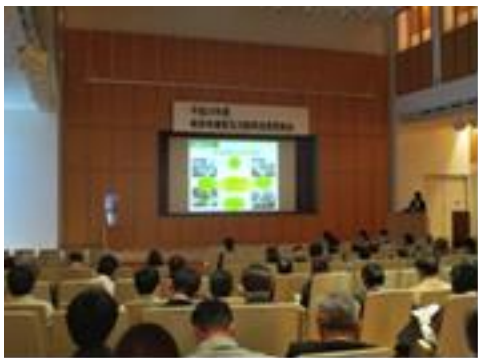
平成 29 年

# 2 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

### 活力ある新産地づくり

#### 郡上農林■にんじん 「春まちにんじん」今年も順調

郡上市高鷲町で栽培されている「ひるがの高原春まちにんじん」の出荷が2月上旬から始まった。農業普及課では高品質安定生産に向けて、播種～発芽時の土壌水分維持や、雑草対策等に関する支援を行ってきた。その結果、今年のにんじんは概ね順調に生育し、糖度も10度程度まで高まっている事が確認され「春まち」ブランドに相応しい出来となった。

写真は圃場での収穫作業の様子である。積もった雪を除けるのに重機(写真奥)を使うが、掘取りなどそれ以降の作業は全て人力となる。氷点下の寒さと畑のぬかるみの中、腰をかがめて行う作業者の労力負担は非常に大きい。その労力に見合った収益が上がるよう、農業普及課として今後も支援を続けていく必要がある。



【収穫作業の様子】

### 多様な担い手づくり

#### 下呂農林■長期研修生 長期研修生が農産物流通の現場を視察

下呂市では、7名がトマトの就農に向けた長期研修を行っている。

このうち6名が、2月27～28日、飛騨地域新規就農者育成協議会及び飛騨農業再生協議会主催の「農産物流通現地視察研修」に参加し、大阪市中央卸売市場、大阪中央青果(株)を視察した。

1日目は、市場責任者から飛騨産地と消費地との信頼関係や産地を担う一員になる上での責任感や自覚を持つことの重要性などについて説明があり、参加した研修生は熱心に耳を傾けていた。

2日目は、市場施設を視察し、研修生は巨大な市場を前に圧倒されていた。

農業普及課では、今後も下呂市、飛騨農協等と連携し、様々な研修カリキュラムを組み、栽培から販売まで経営力に優れた研修生を育成していく



【野菜売場等を視察】

### 売れるブランドづくり

#### 西濃農林■全域 平成28年度「西濃農業の活性化をめざすセミナー」を開催

2月13日に西濃総合庁舎大会議室において、管内農業関係者約150名を参集し、各種情報の提供・共有と担い手育成を目的に標記セミナーを開催した。

農業普及課からは、キュウリの病害対策支援、大豆の難防除雑草対策支援を中心に2課題の活動成果を発表した。発表後、それぞれの関係生産者代表から激励の意見等も出され、日ごろの活動に対し評価を得ている感触が認められた機会でもあった。

また(株)名産販売企画販売部長から講演があり、昨今の農産物・加工品の販売、流通に際してのポイント等について解説され、農家が生産から流通を意識し6次産業化等を志向していく上で参考となる貴重な情報が提供された。



【活動の成果報告を行う普及指導員】

## 恵那農林■普及活動全般 **農業普及課・中山間農業研究所中津川支所合同成果検討会を開催**

恵那農林事務所農業普及課並びに中山間農業研究所中津川支所では、普及指導活動や最新の研究技術を紹介・検討する合同成果検討会を2月8日に恵那総合庁舎において開催した。

両機関合同による開催は本年度で6回目となり、中津川市・恵那市内の生産者・J A ・市・県関係者等約140名の参加が得られた中、農業普及課から「トマト新規栽培者の早期経営安定を目指した普及活動」をはじめ、合計3課題の活動成果について紹介・検討した。

中山間農業研究所中津川支所からは『「独立ポット耕」夏秋トマト型システムの現地試験における生産性』の他4課題の研究成果を紹介・検討した。

各課題の紹介・検討の後の総合討議では、出席者から「産地のブランド化に向けた知名度向上にも取り組んでほしい」等の前向きな要望や質疑も出される等、有意義な検討会となった。

農業普及課では、今後も恵那地域ならではの特長を活かした農産物生産と地産地消（商）による中山間地農業の活性化に向け、普及指導活動を展開する。



【出席者との検討の様子】

## 飛騨農林■果樹 **雪害に強い産地づくりにむけた枝吊り方式を検討**

飛騨地域では、平成26年の豪雪により果樹栽培において倒木や枝折れ等の被害が発生した。そこで飛騨市古川町の果樹園では、平成27年から雪害を軽減する枝吊りの導入に向けて、試験ほを設置して効果を検証している。

1月中旬のまとまった降雪を受けて、現在約10日間隔で園内の積雪深や被害状況について調査を実施しており、一般の園地では倒木や枝折れ等の被害が一部で発生している中で、試験ほについては大きな被害は見られず、枝吊りの効果が確認できている。

春に向けて被害が更に拡大する恐れもあるため、農業普及課では3月下旬まで引き続き調査を継続していくとともに、生産者と枝吊り方式の現地導入に向けた検討を実施する。



【試験ほの調査をする  
普及指導員】

## 農業経営課■飛騨牛 **飛騨和牛生産協青年部繁殖育成技術研修会**

2月27日、飛騨和牛生産協議会青年部（林忠助部長）は飛騨総合庁舎において和牛繁殖経営の基礎技術を学ぶ繁殖育成技術研修会（基礎技術編）を開催し、最近繁殖牛の飼育を開始した後継者や法人に雇用された従業員、農協の若手営農指導員など22歳から83歳まで幅広い年齢層で約50名が参加した。

研修会では農業経営課地域支援係高山駐在の革新支援専門員が繁殖雌牛の飼料計算方法や子牛の飼育方法など和牛飼育に必要な基礎知識を解りやすく解説した。飛騨地域に家畜の飼養管理担当の普及指導員（革新支援専門員）が配置されて2年目となったがベテラン農家であっても肉用牛飼育に関する基礎知識がないために経営が悪化している場合があることから今回初めて開催したものである。

受講者に行ったアンケート調査では「内容が良く理解できた」「自己流で飼育していたので勉強になった」「もう一度聞きたい」「今後も継続して研修会を開催してほしい」という回答がよせられた。近年、牛の飼育技術が急速に進歩して産地間格差が広がる中、畜産農家から畜産普及体制の一層の充実を求める声が聞かれている。



【繁殖育成技術研修会】

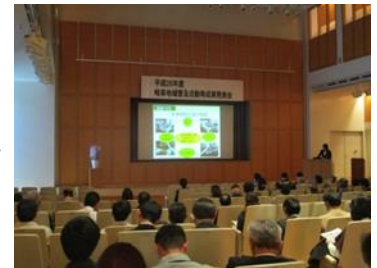
## 住みよい農村づくり

### 岐阜農林■普及活動 平成28年度岐阜地域普及活動等成果発表会開催

2月7日、岐阜農林事務所及び岐阜地域農業改良普及事業推進協議会主催による普及活動等成果発表会を開催し、生産者及び関係者156名が参加した。

農業普及課から、アスパラガスの新産地づくりに向けた取り組み、岐阜地域における需要に応じた米生産の推進、瑞穂市学校給食野菜生産グループの活動支援の課題について、活動成果を発表した。各課題について、共に取り組んだ関係機関からは、活動の成果や今後取り組むべき内容などについて助言があった。

また、昨年の全国農業担い手サミット in ぎふを機に結成された「岐阜就農応援隊」の本巣市地域おこし協力隊員からは、新規就農などの活動事例報告が、「合同会社いちごいちえ総合経営プランニング」の遠山敬司氏からは、農業経営を維持・発展させる手法などについて講演があった。



【普及活動成果発表】

### 揖斐農林■いび農業活性化研修会 今後の揖斐地域の農業を考える

農業普及課は2月9日、「食、農、環境が一体となった元気な揖斐の農業を目指して」をテーマに研修会を開催した。これは揖斐地域の農業者、関係団体及び関係機関が一堂に集い、今後の生産振興や農業活性化など、地域農業が目指す姿について学ぶ機会とするもので、約170人にご出席いただいた。

当日は、農業普及課から「水田フル活用による担い手の経営安定に向けた支援活動」として、坂内産コシヒカリのブランド化推進、飼料米専用品種の直播栽培支援、大豆の難防除雑草対策の取り組みを報告した。また、揖斐アスパラガス部会長から「アスパラガス産地化への取り組み」として、部会の設立、産地化への取り組み、課題と将来展望について発表があった。県農産園芸課からは、「平成30年産からの米政策の転換について」として、国の米政策の見直し概要、岐阜県の新たな需給調整の仕組みなどの情報提供があった。

滋賀県甲賀市の有限会社シオールファーム及び有限会社共同ファームの今井敏代表取締役を講師に「作る楽しさ 造る面白さ 創る醍醐味！～農業経営の多面的な展開と今後の可能性～」と題した講演では、水稻や小麦、大豆の大規模経営の他、堆きゅう肥等を利用した減農薬・減化学肥料栽培の取り組みや、新規品目として野菜・果樹の導入を図るとともに、直売所や加工場を新設し、自社農産物を使ったおかき、ドレッシング、ポン菓子、おはぎ、漬物等の製造・販売の取り組みについて紹介があった。

出席者にとっては、土地利用型作物の大規模経営、野菜・果樹の複合経営、直売所・加工場の自社経営、6次産業化への取り組みなど関心の高い内容・話題であり、熱心に聞き入っていた。また、イチゴの新品種「華かがり」、大野町の柿を加工した柿チップ・柿ゼリー、揖斐川町春日の沢あざみを原料とした「かりんとう」の試食も行い、地元農産物の活用についても考える機会となった。



【研修会の様子】



【普及指導員による発表】



【加工品等の試食・展示】

## 中濃農林■協同農業普及事業成果発表会 「ひらく農業・中濃」を開催

2月14日、県中濃総合庁舎において中濃農林事務所主催（中濃農業振興協議会共催）により「平成28年度協同農業普及事業成果発表会 ～ひらく農業・中濃～」を、「地域で取り組む6次産業化」をテーマに開催した。地元選出の県議会議員を始め、農業関係者等約80名が参加した。かみのほゆず(株)の波多野政廣代表取締役の事例発表と関市ビジネスサポートセンターの杉山正和センター長の講演のほか、農業普及課からは、上之保地域でのゆずの新産地づくりに向けた普及活動を報告した。



【普及活動報告】

## 可茂農林■露地野菜 「岐阜県 かぼちゃサミット」を開催

2月9日（木）午後、JAめぐみの太田支店で、「岐阜県 かぼちゃサミット」が開催された。県内のかぼちゃ生産地や関係者が集結する「かぼちゃサミット」は、県内で今回が開催初めてとなり、高山市の「宿讎かぼちゃ研究会 若林会長」と富加町の「富加露地野菜部会 多治見会長」の呼び掛けによる開催となった。同サミットは、約70名の参加で、県内関係産地からの取組み情報の提供と意見交換が行われた。サミットの終盤には、十六銀行塩見公務営業部長から地域創生の取組みについての講演が行われた。今回のサミットは、農林事務所を含めた関係機関も大いに協力した開催となり、今後のかぼちゃ生産の推進につなげていくこととした。



【意見交換の様子】

## 東濃農林■土岐地区農業普及推進協議会 農業普及活動発表会を開催

2月28日に農業普及課は、土岐地区農業普及推進協議会と共催で農業普及活動発表会を開催した。参加者は、農業者・農業関係者の他に東濃就農応援隊員の出席があり、110名ほどであった。

最初に全国農業優良経営体表彰で農林水産省経営局長賞を受賞した(有)甘原ええのおから多角経営の現状と更なる集落営農活動について、農業普及課からブロッコリーのミニ産地育成について発表を行った。

また、株式会社シンセニアン勝本氏から「直売所から広がる地域農業の可能性」と題して地産地消による農業経営について講演していただいた。講演では、地元農産物をいかに取りそろえるか、またその対策などに示唆に富む非常に実践的な内容であった。

農業普及課では、今後もこのようは発表会を通じて地域の農業の活性化を推進していく。



【発表する普及指導員】